

## 編集室から

私事で恐縮です。三人兄妹の末っ娘が、この春卒業しました。上の兄二人が実家を離れて暮らしている中、娘だけは我が家から通える企業に就職を果たしました。高規格道路も開通したり、無料化されたり、通勤もラクに。

そんな娘の晴れの卒業式。出かけてみると、新設された学長賞を受賞する13人の一人に選ばれていました。学位記(卒業証書)とともに渡された紙袋の中に一冊の資料。海外留学経験の先輩が後輩に宛てた留学のススメでした。その巻頭に娘の文章が、掲載されています。

何気なく読み始めたその目頭が熱くなりました。すぐに家内に見せましたが、堪え切れず大粒の涙が溢れ出していました。留学時にお世話になった方々への感謝の言葉に始まり、

- ・時差ぼけと極度の緊張からパニックになった時、ホームステイ先の家族が支えてくれた事
- ・子が大学に通う院生の親。高齢にもかかわらず新たに語学を学ぶ老婆など、彼の地で学ぶ人々の積極さへの新鮮な驚きと敬意
- ・不機嫌・落ち込みはその間、時間のロスで、何も事態が前進しないことへの気付き
- ・なによりも多くの友人を得たこと。そこから学んだ多方面への興味、多様性・個性を認め合う素晴らしさ
- ・周囲への気遣い、思い遣りは世界共通な事...

留学中、娘は一言も愚痴めいた事は伝えて来ませんでした。今明かされるそんなあれこれ、そしてその成長振りが溢れていました。

親にとって、子供は生まれてきてくれるだけで、親孝行です。存在自体が宝ですから。その上で、子と向き合うことから生ずるさまざまな体験のすべてが、親としての成長の糧。これも孝行です。さらに、このような成長の姿をみせてくれる時、親は望外の感動を貰います。

今年もまた、新しい春の訪れです。(は)



本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが経営する「能登の夜市(のどのよるいち)」。最近、問い合わせを多く頂きますので、こちらに連絡先を記載いたします。

上京された際、ご利用になってみてください。毎夜能登から直送の酒肴に包まれ至福です。

もちろん、川畠さんご自身もお店に立っておられます。

能登の夜市：03-6417-9787

17:00～23:30 日・祝日 定休

目黒駅西口前。サンフェリスタ目黒B1F

<http://notoyoru.jp/>

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2013/04

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

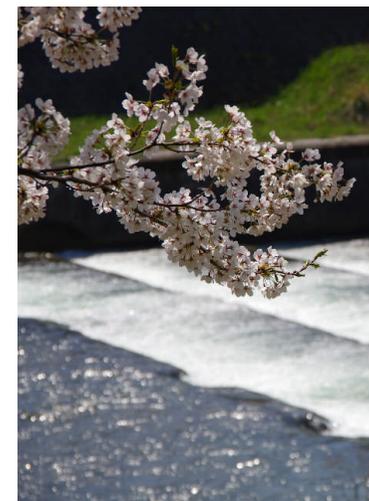
Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2013/04

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

## 卯月



金沢・浅野川にて  
by hama

おそらく、誰にでも、無我夢中という状態の経験があると思う。夢中のとき、時間があつという間に過ぎていく。その間に成したことの結果は普段よりも数倍で、大きな達成感に包まれる。そして、その状態が自分でも気に入っている。

ある研修会で、この状態を心理学的にはフロー状態ということを知った。スポーツ界では「ゾーンに入る」とも言うらしい。両者はほぼ同一で一九七〇年代、シカゴ大学のチクセント・ミハイ教授が提唱して以来、世界的に研究が進められ、比較的検証が容易であるスポーツ関係で特に積極的に取り入れられている。

さらに面白い逸話を聞いた。レスリングのメダリストである吉田選手が、ある試合残り三秒で、逆転勝利した。この時の心境を、国内での第一人者・辻秀一先生と元テニスプレイヤーの松岡修造氏がインタビューに訪れたという。この時、松岡氏は「あと三秒しかないではなく、あと三秒もあると考えれば良い」と言っていたそうだ。ポジティブ思考である。

ところが、この考え方は、フローとは全く異なるらしい。この思考法では「状況は後三秒しかない」ことを前提に、逆転の発想をしている。つまり三秒を「瞬間の少ない時間」と捕らえていることには変わりがない。

しかし、フローでは三秒という時間そのものに意味を付けない。ただ事実として三秒を捕らえ、その間にできることを整理し、淡々と実行するだけの囚われの無い状態なのである。三秒に「わずかな」という意味づけをした時点で、身体は緊張し、その能力を発揮できない状態に陥る。つまり、状況に対する自分のネガティブな意味づけが、できない結果をもたらしてしまう。吉田選手は、このことを熟知していたという。

人は普段、自らの能力の程度を無意識の内に「こんなもの」と測っている。そのレベルに対して達成すべき目標や課題が上回っているとき、達成できるか心配になり不安を覚える。

一方、逆に自らの能力に対して低すぎる目標・課題を前にしたとき、退屈で無気力になる。

フローな状態とは、両者の中間で、いずれでもない領域を指し、人が普段ないほど集中し生き生きと自らの能力を発揮する状態である。

全く別の分野で学んできたことと、ほぼ完全に符合する理論。猛烈に興味湧いてくる。職業柄もあって、即座に調査研究の虫がうずく。北海道大学医学部を卒業され、慶應義塾大学スポーツ医学研究センターを経て、医師会公認スポーツドクターとして活躍の辻先生の著書を早速、複数取り寄せた。

人は極限状態にあるとき、何ができるのだろうか。客観的に極めて厳しいと見なされる状況でなお、著しい成果を上げる人と、普通に諦めてしまつ人との間に、どのような違いがあるのか。永年解けない問の一つだった。

誰でも体験したことがある。「時間を忘れるほどの集中」。それが、絶大な成果を生み、個人にも至福感をもたらすものであるならば、その状態へ容易に入り、その状態でいる時間を長く出来れば善い。ところが、そうは問屋が卸してくれないようだ。

生物には、反射という機能が産まれてもって備わっている。生命を安全に維持するために、外界からの刺激に対して一定の反応をする。後天的により多くの刺激への確な反応ができるほど、安全に生存できる確率が上昇する。これが「学習」である。人間は、社会を創る生物である。また唯一言葉を使う。このため、より複雑な刺激・言葉からの影響を受けやすいように脳が発達した。この巨大な認知能力によって、フロー状態になることが難しくなっているらしい。

平たく言えば、世間の常識を身につけ世渡りが上手な人ほど、フローになりやすく、結果的に短期間で著しい成果を挙げることに縁遠いということか。なんとも皮肉だ。一方で、一筋の光も見える。フロー状態になる方法が辻メソッドとして開発され、著書や研修を通じて広められつつある。辻メソッドは、既にスポーツ界のみならず、企業にも導入実績があるという。企業への導入例、その方法などは「フロー・カンパニー 飛躍し続ける個人と組織に生まれ変わる法則」ビジネス社刊に詳しい。

これまで私は、街や村、地域の活性化を通じて人々の幸福を見つめ続けてきた。その延長線上で、人間にとって幸福とは何かを問い続けている。

しかし両者の間には溝があった。社会活動を成すためには、何らかの組織が必要である。会社や組織の幸福と、それに属する個人の幸福が合致していた時代は、過去となっている。両者の幸福が必ずしも一致しない現代は、組織人として生き難い時代となってしまった。それが就業や生き方の多様性を生み、さらに社会的な対応の複雑さを急激に押し上げる。組織活動と個人の幸福との間を結ぶ架け橋が見失われた結果、人々は心理的・精神的に漂流しているかのようだ。

フロー理論は、この架け橋になる可能性を秘めている。いや逆に、フロー理論が周知となる社会こそ、個人が生き、結果として社会が生き生きとするのではないか。そう強く感じている。地域社会へ浸透するには、まだ時間を要するかもしれないが、わが国を代表するような企業に、導入実績が挙がっていることは、光明である。

入門書として「ゾーンに入る技術『脅威の集中力』が最高の能力を引き出す！」辻秀一著、フォレスト出版をお薦めしたい。集中脳を鍛えることで、質の高いパフォーマンスを発揮し、あらゆる結果を導けるフロー状態がやってくる。同書では、フロー状態とはどんなものか、それを実現する脳の機能や状態は、どのようにして鍛えることができるのかを分かりやすく紹介している。

手前味噌で甚だ恐縮だが、講演・研修に高い評価を頂いている。終了後のアンケートに「時間を忘れて聴けた。夢中で受講できた。」と嬉しいお応えを頂く。振り返ってみるとこの時、自分がフロー状態にあるようだ。そしてアンケートにあるように、それは伝播するようなのだ。

土壇場に強いなでしこジャパン。決めないと負けるPK戦で、なんと笑顔ながらも確実にシュートを決めてゆく選手たち。フロー状態にある典型例だろう。彼女たちの笑顔と功績に、チーム内に伝播されたフロー状態が、個人の幸福と組織としての華々しい成果を橋渡すのを観る思いがする。

彼女たちの姿は、チーム・企業・団体を問わず、個と社会が幸福に結ばれた近未来の輝きなのかも知れない。

## きただより57 弘前大学地域社会研究会 上村 康之 『東北新幹線青森開業後の地域状況(1)』

きただよりでは、「2010年東北新幹線開業に向けて」を第32回(2008年10月)~第45回(2010年12月)のなかで5回、連載させていただいた。今回からは、来年の北陸新幹線金沢開業を控えていることも鑑み、不定期に「東北新幹線青森開業後の地域状況」をお届けしたい。第1回は、観光客の動向について述べていく。

2012年12月、構想から38年の紆余曲折を経た東北新幹線青森開業から早いもので2年が経過した。2013年3月16日から東北新幹線「はやぶさ」は、フランスのTGVと並ぶ世界最速級の時速320km運転が開始され、新青森~東京は最速で2時間59分とついに3時間を切った。青森市出身の著者とすれば、1982年の東北新幹線盛岡開業以前、青森~上野が昼の特急で9時間、夜行列車で12時間かかっていた頃を想えば、青森市の八甲田山沿いを駆け抜ける新幹線に未だ不思議な感がある。

さて、2010年12月の新幹線開業直後は、入り込み客が対前年同月比を上回ったものの、大雪により目算していたより伸びずに3月を迎えた。そして、2011年3月11日の東日本大震災とその後1ヶ月間の大きな余震により東北新幹線は運休を余儀なくされ、全線の運行再開が4月29日、震災前のダイヤに戻ったのが9月23日であった。

青森県や青森市では新幹線開業に大きな期待を寄せ「結集!青森力」をスローガンに、2009年度から大型観光キャンペーンを展開してきた。新幹線開業前の2009年12月~2010年11月、開業後の2010年12月~2011年11月における青森県の観光客数と主要宿泊施設宿泊者数を比較すると、観光客数が95.6%、宿泊客数が98.7%であった。3~5月に限ってみると、観光客数が68.7%、宿泊客数が81.1%と震災の影響を大きく受けたが、裏返すと他の期間でよくぞ埋めたといえよう。

東北で震災被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県を除いた青森県、秋田県、山形県の3県では、青森県が新幹線開業効果の故か、若干回復が早かったようである。

この要因の1つが全国組織によるコンベンションの開催である。夏から秋にかけて入り込み客を維持できたのは、震災から少し時間も経ち、落ち着き始めた時期でもあったが、予定されていた各種コンベンションの開催が下支えした。青森県が2011年度に開催費の一部を助成したコンベンションは46団体、県外参加者延べ宿泊客数は約3万5,000人となり、前年度に比較し13団体、約2万2,000人の増加を示した。

次に、震災から1年が経過した2012年4月以降について、青森市の観光関連施設、宿泊客数は、新幹線開業前の水準より若干上回っているようである。これは新幹線開業に合わせて青森駅北側のウォーターフロント地区に青森市による「ワ・ラッセ」(ねぶた常設展示施設)、JR東日本による「A・FACTORY」(物販飲食施設)がオープンし集客力が高まったことによる効果も大きい。

このように入り込み客からは何とか健闘しているようにみえる青森県の観光であるが、観光消費額に目を転ずると2010年と2011年では対前年度比で8割程度となっており、県内の宿泊、土産、交通など観光関連業は厳しい状況にある。

しかし、既に新幹線が開業し、大震災時には開業効果が無かった秋田県の観光がいまだ震災前の水準にも戻っていないように、もし新幹線開業効果でもなかったら青森県の観光はさらなる打撃を受けていたと予想されるのである。

## 『桜まつりがー』 株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

今年はほんと桜の満開が早かったー。3月23日に満開なんて年の頭には誰が想像したでしょう。

今年は近年まれにみる厳しい寒さが続いた冬でした。東京でも大雪になる日が2日くらいありました。

そう。誰も今年の桜は早くても平年並みの4月初旬あたりだろうと思ったはずです。そして、御託にもれず目黒の商店会の方々も4月7日(日)に『桜まつり』という決断をしたわけです。

目黒と言えば目黒川沿いに咲き乱れる桜並木は都内でも1,2を争う名所です。うちの店も昨年から桜まつりのイベントに出店を出し、一日で通常営業の3倍以上の売上をたたき出す、年に一度の大イベントなわけです。

しかし、蓋を開けてみれば3月中旬には開花宣言、その一週間後には満開という現実。そして4月7日時点を想像するにおそらく桜の花は。。。。

とまあここまでは、『自然相手には勝てないよねー』という話で終わってしまうのですが、私の中で問題視したのが、開花宣言が出てからの商店会の対応なんです。

全く今後の対応について連絡が来ません。噂では交通整理のアルバイトの発注を出したとまで聞こえてきます。

こんなとき、通常の組織として適切な対処としては

23日、24日をターゲットに店舗および関係各所と

実施可能なポイントに集中して調整をする

-a 3/23・24のできる限りでイベントを開催する。

-b 3/31にでも

-c 調整した結果難しいようであれば今年は桜まつりを中止し

運営費は各店舗に返金する

あたりでしょう。

リーダーシップがないんですね。あとは問題解決のプロセス管理や実行力もないんです。

他人事とは思わず自分も同じようなことをしていないか戒めないと。

しかし4月7日(日)の桜も人もいない遊歩道で『桜まつり』という看板のもと、能登のいしりチャーハンとビールを売るような真似だけは、したくないなあ。

『富士の国から ~大魔神のたび~』

エンジン鳴らすぞ。(その2) 静岡県職員 溝口 久

さて、三日間にわたる時間割プログラムを前に、どれを選ぼうか、いくら身があっても足りることのない魅力的な内容だ。このところの最も興味のあるテーマである「経済と食」に絞った。

まずは、勝間和代氏にマネックス証券CEOの松本大氏他が登壇する「日本経済に未来はあるのか?」「あなたのお金を殖やすには?」だ。

買ったものは売るんだけど、買い時は教えてくれない、売り時は教えてくれるということはない。儲けるにはドローバックで売ることをするといい。買った時から5%ダウンしたら売り、上げの後に必ず来る下げの時に反転値から5%ダウンしたら売り、5%下がらず上げに転じたらそのままいくことを繰り返す。その株が上げ基調ならピークの5%減で売れる、かなりの儲けを確保できるというものだ。

夜学場で小生は酔いに任せて松本氏にそれが機械的にマネックス証券でできるとしたら、持ち株全てを移転すると言った。いずれにせよ他の証券会社とは異なる仕組みがありそうだからだ。さらにマネックス証券の使いこなし方を明らかにして欲しい、先のシステムもできるかどうか、そのことを日経新聞の一面を使って広告して欲しいって言ったら、半年待ってほしいと氏は答えた。さてどうなるか楽しみである。

食の講座では、アイアンシェフに登場のヒロソフィー銀座のオーナーシェフの山田宏巳氏の「浜松の食材でイタリアン!」を受講した。浜松三ヶ日の極上・極厚ステーキ肉をフライパンで焼く方法を目の前で実演してくれた。両面十分に焼いた肉をいったんフライパンも外に上げ、余熱を利用して中まで熱を通す、内部は65度が適温。そして仕上げに表面を再度焼く、中は温くても表面は熱くないと人は満足しない。

他にインゲンのゆで方、新玉ねぎのサラダの作り方を教えてくれた。実技を交えてね。お待ちかねの氏の焼いたステーキは一口大の大きさに切り分けられ受講者の口に吸いこまれた。

「日本のワインは本当に美味しいか?」では、ワインの血が流れている



川島なお美氏を中心にグラフィックデザイナーの麴谷宏氏に作曲家千住明氏が絡み、お勧めは白ワインの甲州、マスカット・ベリーAの赤ワインといった話があった。もちろん試飲のワインがついていた。

鮭にワインが合う。醤油にほんのちょっとワインを垂らすと鮭にあうワインを実感できるという話は興味深かった。

「平成170歳の職人仕事」では山本益博氏が鮭「すきやばし次郎」店主小野二郎氏と鰻屋「野田岩」の金本兼次郎氏から話を引き出した。小野二郎氏は浜松市天竜の出身だ。外に出て話をするにはまずない。山本氏曰く由布院料理研究会に呼ばれた以外は。

でも今回は出身地ということで特別とのことだ。皆ネタのことはかり言うけど、シャリに相当に力を注いでいる。人肌の温度の鮭飯を出すために一度に炊くことはしていない。ネタのエビは茹でてたてを出している。

立ち仕事を続けるために普通の歩くことは半端なく長い...

話の内容は尽きることがないが、口にしつけないとわからない。お任せで3万円ほどのこと、人間国宝と言っていい二郎さんに握った鮭ならと思われる方は是非一度召し上がってみたら如何だろうか。

年一回が基本のエンジン01が今年は特別に11月29日から3日間幹事長の林真理子氏の出身地の甲府で開かれる。国民文化祭も今年は山梨県だ。相当に気合の入った内容になることは容易に予想される。いざ甲斐の国に、現地でお会いしましょう。